

地球科学輻合ゼミナール

(2013年度 後期 第5回)のご案内

なぜ、我々は「予知困難」と結論したのか？

橋本学

京都大学 防災研究所

2013年5月28日，中央防災会議の南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性調査部会の報告は，大きな反響を呼んだ。この報告の結論は，「南海トラフ沿いの巨大地震の予測は困難」というものであり、これまでの「東海地震の予知」も含めて、地震防災に対する考え方の大きな変革を求めるものであった。

実は，この報告の内容は，ここ数年の地震学研究において醸成されて来た見解をまとめたに過ぎない。すなわち、地震現象は多様性に富み，80%以上の高い確度で地震の発生を予測することは困難である，という認識を示した。

筆者は，当該調査部会はじめ、南海トラフ沿いの巨大地震に関する政府の委員会に参加してきた。今回，この調査部会の議論を紹介するとともに，地震防災への向き合い方について議論する。

11月13日(水) 午後4:30～午後6:00

場所：理学研究科6号館 303号室